

インターバンクの声（2015年3月3日）

米1月の個人所得・消費支出、そして2月のISM製造業景気指数のいずれもが事前予想を下回ったり、ほぼ予想通りの結果だったにも関わらず、ドル円が120円台を回復させて来た。120円台の相場は、実に2月12日以来のことだ。この3週間ばかりの間、何回か上値の120円と下値の118円それぞれを付けに行くような気配はあったが、結局は118円から120円までの2円にも満たないレンジ取引を続けてきた。市場では収益性の薄くなったドル円取引から他の通貨ペアに乗り換える動きも活発化していたようだ。ただ、ドル円を好む参加者の間ではレンジの狭さを逆手に取った「ダブルノータッチオプション」購入者も多かったようだ。117-120円や118-120円のレンジで、今週の米雇用統計前までの期間に限定しての購入がほとんどだったようだが、昨夜の120円超えで一部の参加者は、利益獲得の夢が壊されてしまった。年度末も近くなり、既に119円台で一部の予約を取ってしまった輸出企業も多いが、120円台となれば更に予約が進むに違いない。そう簡単にドルが120円台を駆け上がることはないだろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。